

緑茶の需給情報

1 国内生産量

国内生産量は、ここ10年の動向で見ると、緑茶飲料需要の増加により16年産は10万700トンになるなど増加したが、17年産以降は10万トンを割り込み減少傾向で推移しており、26年産の生産量についても面積の減少に伴い、前年産から1,300トン減少の8万3,500トンとなった。

2 輸入量

輸入量は、緑茶飲料の需要増により、16年が1万6,995トンと急増したが、その後、原料原産地表示の義務化や国産志向の高まり等から減少傾向で推移しており、26年は4,180トンとなった。

3 国内消費量

一人当たりのリーフ茶の消費量は、長期にわたって減少傾向で推移しており、家計調査によれば26年では293g/人となっている。緑茶飲料では、12年の8.0%¹/人から17年には20.7%¹/人と急増したが、その後、炭酸飲料等他の飲料との競合によりやや減少しており、26年では19.4%¹/人となっている。こうしたことから、(株)日刊経済通信社の推計によると、国内消費量（在庫消費量を含む）は、17年に10万8,500トンとなったが、その後、21年には10万トン台を割り込み、25年は9万6,000トンと推計されている。

4 輸出量

輸出量は、世界的な緑茶ブームを背景として急増しており、2年の283トンから22年には2千トンを超え、26年は、3,516トンとなった。なお、26年の主な輸出先は、数量ベースで米国（44%）、台湾（16%）、シンガポール（7%）、ドイツ（7%）となっている。

5 在庫量

在庫量については、産地段階、小売り段階等多岐にわたるため正式な調査データはな

いが、関係者等からのヒアリングによると、飲料向け需要を見込んでの供給が過剰になったこと等から20年前後が3万トン程度積み上がったが、その後は国内生産量の減少と輸出量の増大分を繰越在庫から充当したため減少傾向にあると見込まれる。なお、(株)日刊経済通信社の推計においても、17年～20年にかけて、在庫量が3万3,000トンに積み上がったが、その後、21年以降は減少傾向となっており、25年では過去10年で最低レベルの7,800トンと見込んでいる。

緑茶の需給動向

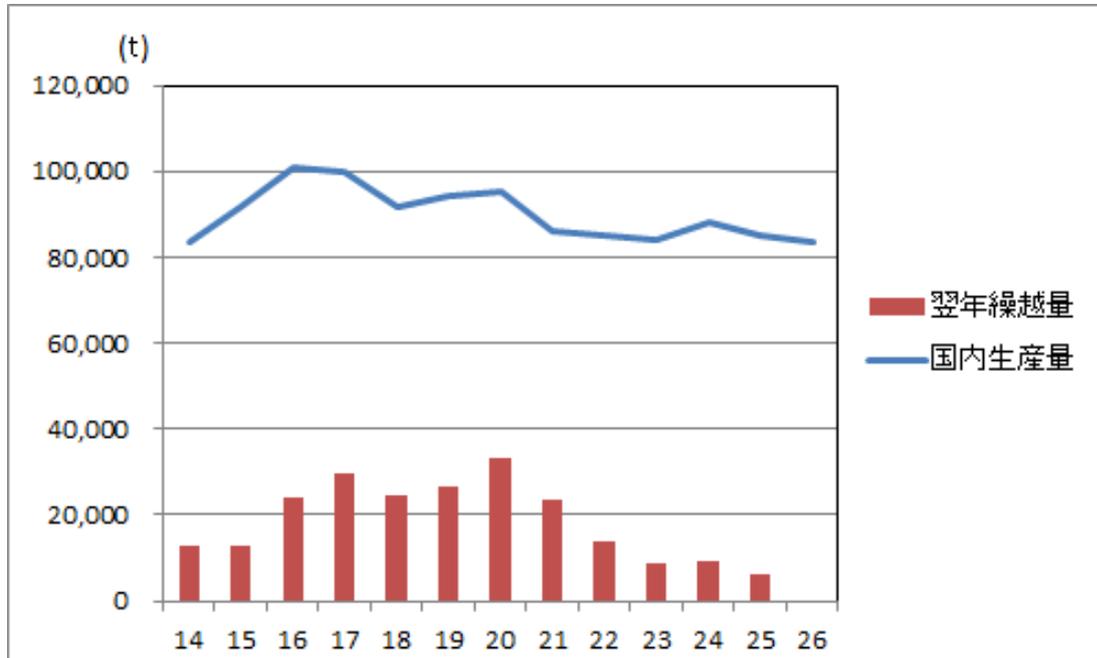
年	国内生産量 ① t	輸入量 ② t	輸出量 ③ t	国内供給量 ④=①+②-③ t	自給率 ①/④ %
昭和60年	95,500	2,215	1,762	95,953	100
平成2年	89,900	1,941	283	91,558	98
7年	84,800	6,467	461	90,806	93
12年	89,300	14,328	684	102,944	87
15年	91,900	10,242	760	101,382	91
16年	100,700	16,995	872	116,823	86
17年	100,000	15,187	1,096	114,091	88
18年	91,800	11,254	1,576	101,478	90
19年	94,100	9,591	1,625	102,066	92
20年	95,500	7,326	1,701	101,125	94
21年	86,000	5,865	1,958	89,907	96
22年	85,000	5,906	2,232	88,674	96
23年	82,100	5,393	2,387	85,106	96
24年	85,900	5,473	2,351	89,022	96
25年	84,800	4,875	2,942	86,733	98
26年	83,500	4,180	3,516	84,164	99

資料:農林水産省「作物統計」、財務省「貿易統計」

注:23年、24年は主産県のための調査。

(参考)

緑茶の生産量と在庫量の推移



資料：「酒類食品産業の生産・販売シェア」（株）日刊経済通信社

注1：25年度は予想値

注2：「翌年繰越量」とは、供給量－（国内消費量＋輸出量）により算出。